

# 文しょうパズル

①①  
〜  
②②

ことばをならびかえて、

正しい文ぶんを書かこう。

# 文しょうパズル

②



なまえ

左<sup>ひだり</sup>のことばをじゅんじょよくならべて、正<sup>ただ</sup>しい文<sup>ぶん</sup>を書<sup>か</sup>こう。点<sup>てん</sup>(・)や丸<sup>まる</sup>(○)もわすれずに。

A

おおぜいの

バスは、

おきやくをのせて、

きまったみちを

はしります。

あんぜんに

B

まぶしすぎる。

みわたすかぎり

ひろがる

白<sup>しろ</sup>さが

ゆきのはらの

# 文<sup>ぶん</sup>しょうパズル

⑫



なまえ

左<sup>ひだり</sup>のことばをじゅんじょよくならべて、正<sup>ただ</sup>しい文<sup>ぶん</sup>を書<sup>か</sup>こう。点<sup>てん</sup>(・)や丸<sup>まる</sup>(○)もわすれずに。

A

きょうだい<sup>は</sup>、

目<sup>め</sup>を

はじめてみる

うまれて

うみのひろさに

みはった。

B

やまもり

山も森も、

なくなった。

なんにも

しろ

まっ白<sup>しろ</sup>になって、

たべるものが

# ぶん 文しようパズル

⑬



なまえ

ひだり  
左のことはをじゅんじょよくならべて、  
ただ  
正しい文を  
ぶん  
書こう。点(てん) ( ) や丸(まる) ( ) もわすれずに。

A

します。

あ  
上げて

ときには、

て  
りよう手を

うれしい

ばんざいを

B

ふたりの

ぬけるような

あおい

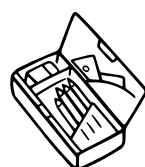
そら  
はるの空が

ひろがっている。

うえ  
あたまの上には、

# ぶん 文しようパズル

⑭



なまえ

ひだり  
左のことばをじゅんじょよくならべて、  
ただ  
正しいぶんぶん  
文を書こう。点（・）や丸（○）もわすれずに。

A

かなしい

おろしていました。

こしを

ふたり

二人とも

きぶん

気分で、

げんかんのまえに

B

おけやさんは、

てん  
天まで

のぼってしまいました。

こんどは、

ぐんぐんぐんぐん

とばされて、

とうとう

# 文しょうパズル

⑮



なまえ

左<sup>ひだり</sup>のことばをじゅんじょよくならべて、正<sup>ただ</sup>しい文<sup>ぶん</sup>を書<sup>か</sup>こう。点<sup>てん</sup>(・)や丸<sup>まる</sup>(○)もわすれずに。

A

していたのでした。

おひるねを

おひるごろから、

木<sup>き</sup>の上<sup>うえ</sup>で、

森<sup>もり</sup>のくるみの

さんは、

ぐっすり

B

言<sup>い</sup>えないほど

ひろがって

いたのです。

ロ<sup>くち</sup>で

いっぱい

タ<sup>ゆう</sup>やけが、

うつくしい

# 文<sup>ぶん</sup>しょうパズル

①⑥



なまえ

左<sup>ひだり</sup>のことばをじゅんじょよくならべて、正<sup>ただ</sup>しい文<sup>ぶん</sup>を書<sup>か</sup>こう。点<sup>てん</sup>(・)や丸<sup>まる</sup>(○)もわすれずに。

A

あか

ぞうの赤ちゃんは、

にぎります。

はなで

かあ

お母さんの

あるくときに、

しっぽを

B

おちていきます。

たねは、

ちかくの

じめん

地面に

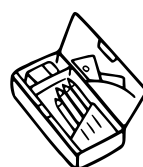
つぎつぎと

だ

とび出した

# 文しょうパズル

⑪



なまえ

左のことばをじゅんじょよくならべて、正しい文を書こう。点（・）や丸（○）もわすれずに。

A

い  
入れました。

きつぷの

でんしゃ  
電車の

とう  
父さんは、

かね  
お金を

じどうはんばいきに、

B

じゅう  
せかい中で

おも  
思いました。

ゆう  
タヤけが

ここは、

ばしょ  
場所なんだと

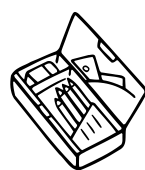
み  
見られる

いちばんすてきな



# 文<sup>ぶん</sup>しょうパズル

⑱



なまえ

左<sup>ひだり</sup>のことばをじゅんじょよくならべて、正<sup>ただ</sup>しい文<sup>ぶん</sup>を書<sup>か</sup>こう。点<sup>てん</sup>(・)や丸<sup>まる</sup>(○)もわすれずに。

A

すみれは、

場所<sup>ばしょ</sup>に

ふやすために、

芽<sup>め</sup>を

いろいろな

出<sup>だ</sup>そうとします。

なかまを

B

おにをこうたいします。

タッチすれば

おにごっこでは、

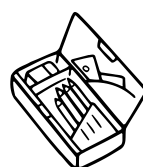
にげている子<sup>こ</sup>に

おにをきめ、

はじめに

# ぶん 文しようパズル

①9



なまえ

ひだり  
左のことばをじゅんじょよくならべて、  
ただ  
正しいぶんぶん  
文を書こう。点（てん）（てん）や丸（まる）（まる）もわすれずに。

A

イルカは、

じょうげ

上下にふって、

およぎます。

しっぽを

ぐんぐん

うちわのように

はやく

B

どうき  
動作のくせなど、

はな かた  
話し方のくせや

あります。

いろいろなくせが

ひと  
人には、

# 文しょうパズル<sup>ぶん</sup>

②0



なまえ

左<sup>ひだり</sup>のことばをじゅんじょよくならべて、正<sup>ただ</sup>しい文<sup>ぶん</sup>を書<sup>か</sup>こう。点<sup>てん</sup>(・)や丸<sup>まる</sup>(○)もわすれずに。

A

まず

つぎに

さいごに

お風呂あらいでは、

みず  
水でながす。

ブラシでこすり、

せんをぬいて、

B

ちい  
小さなくつやが

あって、

まち  
町には

せつせと

つく  
作っております。

おじいさんが

くつを

## 【こたえ】

※このとおりでなくても、文<sup>ぶん</sup>のいみがあっていれば、正<sup>せい</sup>かいです。

⑪ A バスは、おおぜいの おきやくをのせて、 きまったみちを あんぜんにはしります。

⑪ B みわたすかぎり ひろがる ゆきのはらの 白さが まぶしすぎる。

⑫ A きょうだいは、 うまれて はじめてみる うみのひろさに 目を みはった。

⑫ B 山や森も、まっ白になって、なんにも たべるものが なくなった。

⑬ A うれしい ときには、 りょう手を 上げて ばんざいを します。

⑬ B ふたりの あたまの上には、 ぬけるような あおい はるの空が ひろがっている。

## 【こたえ】

※このとおりでなくても、文<sup>ぶん</sup>のいみがあっていれば、正<sup>せい</sup>かいです。

⑭ A 二人とも かなしい 気分で、げんかんのまえに こしを おろしていました。

⑭ B おけやさんは、ぐんぐんぐんぐん とばされて、こんどは、とうとう 天まで のぼってしまいました。

⑮ A さんは、おひるごろから、森のくるみの 木の上で、ぐっすり おひるねを していたのでした。

⑮ B ロで 言えないほど うつくしい タヤけが、いっぱいに ひろがって いたのです。

⑯ A ぞうの赤ちゃんは、あるくときに、はなで お母さんの しっぽを にぎります。

⑯ B とび出した たねは、つぎつぎと ちかくの 地面に おちていきます。

## 【こたえ】

※このとおりでなくても、文のいみがあっていれば、正かいです。

①7 A 父さんは、電車のきっぷのじどうはんばいきに、お金を入れました。

①7 B ここは、せかい中でいちばんすてきなタヤけが見られる場所なんだと思います。

①8 A すみれは、なかまをふやすために、いろいろな場所に芽を出そうとします。

①8 B おにごっこでは、はじめにおにをきめ、にげている子にタッチすれば、おにをこうたいします。

①9 A イルカは、しっぽをうちわのようにはやく上下にふって、ぐんぐんおよぎます。

①9 B 人には、話し方のくせや動作のくせなど、いろいろなくせがあります。

## 【こたえ】

※このとおりでなくても、文<sup>ぶん</sup>のいみがあつていれば、正<sup>せい</sup>かいです。

②① A おふろあらいでは、まず せんをぬいて、つぎに ブラシでこすり、 さいごに 水でながす。

②① B 町には 小さなくつやがあつて、 おじいさんが せっせと くつを 作<sup>つく</sup>つておりました。